

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000245		
法人名	(株)フレンド		
事業所名	グループホームフレンド東大阪 1階		
所在地	大阪府東大阪市小若江4-6-7		
自己評価作成日	平成31年3月25日	評価結果市町村受理日	令和元年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000245-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年5月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎回アピール点は変わりません。</p> <p>8回目を迎える、「夏祭り」や「クリスマス会」はフレンドの最大のイベントで家族様同士が親交を深めることが出来る、絶好の機会でもあります。</p> <p>その為にはこのイベントを継続し続ける努力をスタッフと共にしております。</p> <p>季節を感じ、行事を通して1年間の思い出を創っていきたいと思います。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は、職員の意見も反映されて作成した年間の計画に沿って毎月職員は事業所で研修を受けると共に、可能なものには積極的に外部の研修にも参加する等、様々な研修の機会を通じて必要な知識を身に付けています。事業所の夏祭りやクリスマス会には家族も招いて交流や事業所の理解を得る機会を確保し、また、協力歯科医からの紹介によるボランティアの訪問を受けてマジックやフラダンスの披露を楽しんだり、近隣の医療型のデイサービスに通う利用者もいる等、家族や地域の方との相互の関わり合いを少しずつ深めています。明るい雰囲気の中で、会議や日々の中で職員は活発に意見交換を行い協力してチームワークを保ちながら、利用者と職員が一緒になって笑顔を増やしていくことが出来るように支援に取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての「理念」を軸に施設としてのスローガンをスタッフと会議をして決まったのが「笑顔がひとつふえました」です。これによりスタッフも利用者様も笑顔が増えたと思います。	法人の理念を基に、今年度の事業所独自のスローガンを職員間で話し合って決め、玄関やフロア等に掲示すると共に職員の入職時に理念に込めた思いを説明し職員への意識付けを行っています。日々の中で常に笑顔を心掛けて支援に取り組むことで理念の実践につなげています。年度末には理念の実践を振り返るとともに新しい理念を作成予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を求めているが、地域としての活動があまりにも少ないことに驚かされる。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得ています。近隣の医療型デイサービスを利用する方もおり地域の方々との交流機会となっています。事業所の夏祭りには告知を行い近隣の方を招いて交流する機会を作ったり、行事の際にはボランティアによるマジックやフラダンスの披露を楽しむ等、地域との関わりが深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会隣人の家族様の入院生活などの相談にのったりして出来る限り声かけを心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体的拘束、虐待防止委員会発足により運営推進会議において施設の取り組みや状況を理解して頂き、アドバイスを頂く機会が増えた。	2か月に1回家族代表や看護師、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、活動報告や行事の案内、ヒヤリハットも含めて事故報告等を行い意見交換をしています。転倒や下肢筋力の低下等について話し合い、環境整備や転倒しにくい安全度の高い靴下の導入等、会議を運営や利用者へのサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実践者研修修了証を市役所に持参する機会が増えスタッフ全員が終了目標と聞かれ驚いておられた。	運営上の報告や手続き等で行政の窓口へ訪問し、また不明点等を行政の担当へ電話で確認しています。行政から研修の案内が届き、出来る限り参加することで行政との協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修を開催しそれぞれのスキルアップに努めている。身体拘束をしないケアを目指し、指導している。	年2回事業所で法人担当者による身体拘束に関する研修を行い、職員は知識を身に付けるとともに隔月にチェックシートへの記載を基に自己研鑽に励み、運営推進会議では身体拘束委員会の会議も兼ねています。玄関は施錠していますが、外出希望の利用者には、出来る限り職員が寄り添って散歩に出掛けることで拘束感のないような支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織としても年3回は虐待防止関連の研修を必須としている。管理者は3か月に1度不適切ケアのチェックを職員と共に振り返る機会をお互いに共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年末に包括の出張講習で後見人制度を勉強させて頂いた。日常生活自立支援センターを利用されている入居者様もおられる為制度の理解はあるが、現時点で活用希望者も待機状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定の際には、充分理解を得られる説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様や利用者様の御意見や要望にお応えできる様努力している。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、好みの食べ物を提供する等出来ることから対応しています。家族の意見や要望は運営推進会議や面会時等で聞いています。利用者の食事の形状について意見をもらい、協力医にも相談して利用者の状態も見ながら事業所の対応を伝える等、意見や要望をサービスに反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者によるヒアリングを行い、職員からの意見を収集し、定例会議の場で検討を行い、運営の改善に役立てている。また、運営主体に直接意見があげられるように、WEB目安箱を設置している。	フロア会議や研修時、また日々の中で随時職員の意見や提案を聞いています。年間の研修計画は職員の意見を反映して内容や時期を決定し、出された提案から機材や備品の購入に繋げる等、意見や提案をサービスや運営に反映しています。また、職員の様子を見て声をかけて随時個別の面談を行ない意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、左記の状況を把握する為に報告書の作成をして、適正に就業環境が保たれているか分析を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単位での研修計画に加えて、個人の研修計画を立案しており、実態に即した育成を行っている。社員教育支援制度を設けており、資格取得の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所について、エリア内のみならず全国的に交流する機会を設けており、運営に関わる様々なことを共有し、サービスの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に十分な聞き取りをし本人や家族様の思いをサービスに活かせるよう、安心ある生活を送って頂けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との関係づくりがサービスを導入するうえで不可欠であると考え、蜜に連絡を取り要望や困っておられる事に耳を傾ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様の思いの優先順位を確認し、相談しながらサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊厳を持って支援し、時には学び、共に楽しみや喜びを分かち合える関係になれる様 努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と支援する者の考えが一致出来る様に日頃から話し合いを設け継続していくことが本人を支えていく大切な要素であると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのものや親しい方などとの交流が継続出来る環境づくりをしている。	知人や友人、親戚等の訪問時には居室へ案内しお茶や椅子を用意してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。家族と外泊で旅行に出掛けたり、墓参りや法事等へ外出する際には薬や服装等の事前準備を支援しています。電話を取り次いで会話を楽しむ利用者もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のメリット、デメリットを職員が理解し生活を共にするもの同士としての関わり合いを支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了と共に関係が終わる事が多いのが現実であるが、終わりの形の違いにより関係の維持が続く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	其々の思いを感じながら、支援をしても、意向に沿った支援が出来ない場合もある。少しでも寄り添う事が出来る様努めている。	入居時に事業所や施設等で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、意向等を聞き以前の施設やケアマネジャーからも情報を得て思いの把握に繋げ書面にまとめ職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の会話の中で聞いた思いや希望を記録し、困難な場合でも表情から汲み取ったり家族にも相談して職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活、環境、家族、思いなどを共有し理解する事でサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、したいこと其々の持っている力を引出し発揮出来る場面を提供できる様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングを通して、其々の思いや専門職の意見を聴き、家族関係者と話し合い計画作成に反映させている。	利用者や家族の意向、アセスメントを基に作成した介護計画は6か月毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しています。モニタリングも6か月毎に行い、1年毎に再アセスメントを実施し、見直し前にはサービス担当者会議を開催し事前に聞いた家族や看護師、医師等の意見を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に小さな気づきも記録し職員すべてが情報を共有し実践する際には大変役立っている。		

グループホームフレンド東大阪 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の高齢化に対し様々な手続きの支援や相談をさせて頂いている。医療費の高額などの不安からも解消され喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自立支援によるデイケアの参加により内外の様子や違いを発見する事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により訪問診療を主に変化や検査時は受診している。主治医の指示のもと迅速に対応してくれるので施設側も家族も安心している。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するかを決めてもらっています。現在は全員協力医を選択し月2回の往診を受け、緊急時の連絡も24時間可能で必要な指示を受けています。専門医へは家族が職員の対応で受診しています。また、利用者の希望や必要に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療を受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との関係が良好である為緊急時の対応に不安なく支援出来る。適切な指示を頂く事によりしっかりした支援が継続出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を密に、早期の退院への取り組みに着手し施設復帰を協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に対応について契約は交わしているが、重度化した場合や終末期にも再度家族や関係者の意思の確認をしている。充分な説明のもと支援の方向性をひとつにしてチームとして最後まで支援する。	入居時に指針を基に重度化した際に事業所として対応可能なことについて家族へ説明し、意向を確認しています。重度化した際には医師から説明をもらい再度家族へ意向を確認し、家族や医師、職員で話し合い看取りの体制を決めて支援しています。管理者が職員へ細かな対応方法を説明し、家族から頻回な面会等の協力も得ながら支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度よりすべての職員が救命講習を受け初期対応の実践に向けて訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。避難経路や避難先、連絡網など日頃から取り組んでいる。地域との協力体制は徐々に理解を求めていく。	年2回それぞれ昼夜を想定し、内1回は消防署立会いの下利用者も参加し通報や避難誘導、初期消火の訓練を実施し消防職員から講評を得ています。訓練を実施する際には近隣へポスティング等で案内を行い、事業所の災害時の認知度の向上に努めています。災害発生に備え水やパン等の食料、懐中電灯等の備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合った声かけや支援を心掛けている。プライバシーを損ねない言葉選びで対応している。	年1回以上人権やプライバシーに関する研修を事業所で実施し、職員は知識を身に付けています。丁寧な言葉で親しみを込めて利用者に分かりやすい言葉かけを心掛け、不適切な対応等が見られた場合は都度注意しています。希望に応じて入浴や排泄時の同性介助を行い、羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い傾聴する事で何かを発見出来る場面を作る工夫をしている。本人発信の言葉がひとつでも多く出る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など本人の思いと異なる事もありますが、理解して頂ける様説明し納得されない時は希望に出来るだけ沿う様対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数人の入居者様が今なおカラーリングを希望されています。髪をといたり、髭を剃ったり様々なその人らしいを継続出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく楽しんで頂ける様、食器や小物、おたのしみの食事など少し工夫をして提供している。準備や片づけなど出来る事を一緒に活動している。	業者から献立と出来上がった食事が届き、ごはんや味噌汁等は事業所で作り、職員も一緒にテーブルを囲み同じ物を食べています。月1～2回は事業所で献立を考えお好み焼きやたこ焼きを作ったり、季節に応じておせち料理等を作っています。クリスマスには行事食を作ったり、ケーキやどら焼き等の手作りのおやつを提供する等、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往に合わせ、食べる量や水分量に違いがあり、医師の指示のもと1人1人の健康状態に沿った支援をしている。		

グループホームフレンド東大阪 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科診療や職員による食後の口腔ケアなど口腔ケアマネジメント計画に沿ったケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを活用しトイレでの排泄を可能する事でおむつを減らす努力をしている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、利用者全員の排泄記録を取り排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけやトイレへの案内をしています。排泄支援を継続することで布の下着に戻る等、排泄状況が改善した利用者もいます。排泄用品の種類や支援方法等については職員間で検討し排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理のため水分摂取や服薬調整が必須であり状態にあわせ、運動への働きかけなど予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	デイケアに行かれる方は曜日が固定する事があり、仕方なく都合通りに入浴してもらう事もある。	入浴は週2回を基本に午前中に入ってもらい、希望があれば時間帯を変えたり回数を増やすことも可能です。利用者の状態に応じて2人介助も行い、入浴拒否が見られる場合は声をかける職員を代えたり、日時を変える等の工夫をして無理のないように入浴してもらっています。好みのシャンプー等の持ち込みも可能で、一人ひとり会話を楽しみながらゆっくり入浴をしてもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝される方、早く休まれる方、宵っ張りの方など其々のタイミングで休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を管理して其々の服薬に関して理解をしている。同時に副作用など起こりうる変化についても医師からの助言を職員が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を過ごして頂く為に、役割に応じた家事や楽しみごとを継続して頂ける様声かけや誘導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や外泊などの機会があれば全面的に支援をする。希望通りに外出が困難の場合もあり、理解をして頂き、またの機会を提供している。	気候の良い時期には出来るだけ散歩や買い物に出掛けるように心がけていますが、体制が整わない状況もあります。桜の花見等の季節に応じた外出や、家族と外泊で旅行に出掛けたり、外食を楽しむ等、外出する機会を確保出来るように務めています。近隣のデイサービスへ通う利用者もあり、外出機会となっています。	体制も見ながら、日々の少しの外出の機会がより増やせることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の代行や同行支援は可能であるが、お金の所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや手紙の代筆等それらのやり取りが出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く静かな施設であり広い空間の中、ゆったりとくつろげるソファを配置し、季節感を随所に感じて頂ける工夫をしている。	利用者が書いた塗り絵や季節毎に利用者と職員で作った貼り絵等の作品をフロアに掲示して温かい雰囲気作りを心がけています。テーブルや椅子は利用者同士の関係性を考慮し配置しています。ソファも多めに設置して寛げる場所も用意し、温室度計を設置してチェックしたり利用者の体感を聞きながら室温を調整し、毎日掃除や換気を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3個のソファの配置により其々の入居者様が好きな場所で思い思いに利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様其々使い慣れた思い出の家具をお持ち頂いている。	入居時に家族に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、テレビや筆筒、机、鏡台、仏壇等を持ち込み、職員が家族と相談しながら配置をしています。家族の写真を飾ったり、雑誌やテレビゲームを持ち込み楽しんでいる方もいます。毎日換気や利用者も出来る事に携わりながら清掃を行い快適に過ごせる居室となるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	其々の居室には表札があり、目印をつけた「出来る事」「わかる事」への工夫をしている。		